

平成27年度 同好会事業報告

子どもの心を感じる会・カウンセリング同好会

世話係名 嶋田秀樹 会長名 手塚里子

月 日	実施した事業内容	参加人員
5月1日	役員選出・活動計画作成	8人
12月5日	<p>○午前 講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師 米持 絹子先生 (豊野高等専修学校長・元松本ろう学校長) ・演題 「子どもとの向き合いかた」 ～子どもとよい関係を築くために～ <p>義務教育を終えた生徒の姿から、「3つの間」「居・触・充」の大切さとコミュニケーションのあり方についてお話をいただいた。</p> <p>○午後 投影法演習(「箱庭」)</p> <p>一人ずつ「箱庭」作品を作り、自分が表現している時の思いを感じたり、作品を見て感じることを伝え合ったりした。</p>	10人
2月 未定	<p>○まとめの会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の反省と来年度の方向について ・投影法演習(コラージュ) 	

「カウンセリング同好会」と「子どもの心を感じる会」は、共々に特に夏の時期には教育相談の仕事が大きな比重を占め、活動に困難さがありました。それぞれが「子どもの心に寄り添うための自分はどうあればよいか。」を考え学ぶ会であることから、今年度から一つの同好会として活動することになりました。

先ず、夏期例会が都合で流会としましたこと、お詫び申し上げます。お忙しい中ご都合をつけて下さった会員の先生方には大変ご迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。

二学期には、米持絹子先生(現豊野高等専修学校長・前松本ろう学校長)を講師にお迎えし、例会を持ちました。若槻養護学校・長野養護学校・松本ろう学校等でのたくさんのお会いとご経験に加え、豊野高等専修学校の生徒さん達との関わりから「義務教育を終えた子ども達」がどのような場でどのように生活し学び、どのようなことで苦しんでいるかを、ご自身が関わっておられる生徒さんの姿からお話いただきました。人は三つの間(人間・空間・時間)で生きている「心の居(場所)・触(れあい)・充(実)」があることで自尊感情につながること・・・ここに書ききれないほどの、それこそ「教科書には書いてない」内容に参加者は物音一つ立てずに聴き入っていました。困難からは逃げて良いということを教え、「安定したら前に進む＝一步踏み出す」ことを教えることをしてこなかったのかも・・・と先生ご自身の振り返りもありました。午後は参加者がそれぞれ「自分の箱庭作品」を仕上げる演習を行いました。コミュニケーションとは、かつては送り手中心であったけれど今は受け手中心のそれになっていると言います。参加者の箱庭表現から自分が何を受け止めるか・・・短い時間でしたが、「発信」し「受け止める」体験をしました。

「出会いも起きていることも全ては必然である。その必然を大事にせよ。」かつて東城先生が言われました。必然の出会いを大事に「顔晴れる」力をいただいた例会になりました。「〇〇せよと母は産んだか。」常に原点にもどりつつ。

「カウンセリング・子どもの心を感じる会」会長手塚 里子（日野小学校）